

学校教育目標

未来に向かって 心豊かにたくましく 自ら学ぶ生徒の育成

学校だより「この丘に」

発行：仙台市立南中山中学校

令和2年12月24日

校長 岡田 雅彦

生徒数 543名(令和2年12月1日現在)

〒981-3213 仙台市泉区南中山 2-26-1

TEL 022-376-3127 FAX 022-348-2358

URL <http://www.sendaic.ed.jp/~emuchu-x/>

e-mail emuchu-x@sendai-c.ed.jp

◇親子の対話を増やしましょう◇

校長 岡田 雅彦

師走になりました。慌ただしさが増しますが、新年を迎える時期が膨らむ月でもあります。この時期を、親子の対話を増やす機会にしませんか。

私の子どもの頃は、みな大掃除にかり出されました。私の役目はお正月飾りと障子張りの手伝いでした。大晦日恒例の歌番組が始まるまでに家族全員が一丸となって大掃除を終わらせるのです。お正月には決まって家族写真を撮り、こたつを囲んで今年の目標を語り合いました。家族がそろって語り合う良い機会でした。

最近は親子の対話が減少したという声をよく聞きます。子ども部屋にこもってゲームやスマホに熱中する子どもたち、仕事で忙しい大人たち…。社会全体が変化し、親子の対話の時間を奪っているようにも感じます。そんな現代だからこそ、社会の一員として守るべきルールや役割、責任を、大人が子どもとの対話を通して伝えていく必要があるのかもしれない。その中には、家族でスポーツをしたり家族団らんの食事をしたりすることの大切さも含んでいるように思えます。

様々な伝統的な行事が多い年末年始です。行事に参加しながら親子の対話を増やしてはいかがでしょうか。また、親子だけでなく地域の人々と触れ合う機会が増える時期でもあります。地域に伝わる行事の意味や取組を知り、地域に目を向けることは、未来を生き抜く子どもたちにとって大切なことです。

セピア色になってしまった家族写真は今でも私の宝物です。親と語った夢や目標は50年経った今も覚えていますし、その時に教わったことは今でも役立っています。

ぜひ冬休みは子どもに家族の一員として手伝いや体験活動をさせ、親子でたくさん話してください。そして家族が心をつなげて新しい年を迎える期待を持たせてほしいと願っています。50年後も、子どもたちが幸せに生きていくために。

おしらせ

○内閣総理大臣賞受賞！

「心の輪を広げる体験作文」において、
3年生の さんが内閣総理

大臣賞（中学生の部）受賞しました。これは日本1位の賞になります。小学校の頃、特別支援学級の女の子と友達になったことから、障害に対する考え方が大きく変わった体験・思いを綴りました。（作品名「友達として」）

○冬期休業期間 12月25日(金)～1月5日(火)

(12月29日～1月3日 閉庁日)

おめでとう

○令和2年度内閣府及び都道府県・指定都市主催

「心の輪を広げる体験作文」中学生区分
最優秀賞（内閣総理大臣賞）

○令和2年度仙台市の輪を広げる体験作文コンクール
中学生の部 最優秀賞

○第69回県下女子中学生弁論大会
優良賞

○令和2年度「守ろう大切な命」ポスターコンクール
中学生の部 優秀賞

○第59回宮城県造形教育作品展

特選

特選

特選

○第36回宮城県中学校選抜ソフトテニス大会

第5位

○仙台市中学校ソフトテニス1年生ビギナーズカップ

第5位

○令和2年度宮城県中体連剣道競技

優秀選手賞

○第88回全国書画展覧会

中国四川省内江市長賞

特選

特選

特選

金賞

金賞

金賞

金賞

金賞

金賞

金賞



金賞
金賞
金賞
金賞
金賞
金賞
金賞
金賞
金賞
金賞
銀賞
銀賞
銀賞
銅賞
銅賞



金管 8 重奏 銅賞

打楽器四重奏 金賞



1月の行事予定です。今後の状況により変更する場合があります。

○第9回ヨネックス杯宮城県中学校選抜ソフトテニス大会
男子団体チャンピオントーナメント 第3位

○全日本アンサンブルコンテスト
第54回宮城県大会予選仙台泉地区大会
木管6重奏 銀賞

管楽6重奏 銅賞



日	曜	予 定
6	水	休業後全校集会 全学年実力テスト 弁当
7	木	弁当
8	金	専門委員会
11	月	(祝) 成人の日
13	水	私立高校推薦入試
14	木	新入生保護者説明会
15	金	中央委員会
18	月	職員会議のため部活動中止
20	水	MKアップデー 奨励服採寸日 (北中山小)
22	金	奨励服採寸日 (南中山小) 職員会議のため部活動中止
26	火	職員会議のため部活動中止
28	木	職員会議のため部活動中止
29	金	奨励服採寸予備日 (南中山中)



◇ SNSの利用について ◇

LINE, Instagram, Twitter, Facebook・・・SNSの話題を耳にしない日はありません。SNSは、自らの表現の場であったり、交友関係を広げていく場であったりと、多くのメリットを持っています。しかし、一方でデメリットが存在することも事実です。SNSの特性でもあるプロフィール作成、文章の公開、コメント付与、写真や動画の公開、グループ化などの機能が、誹謗中傷やいじめの温床になったり、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったりしています。

2020年2月、警察庁が発表した「令和元年の犯罪情勢」によると、SNSに起因する犯罪の18才未満の被害者数は、過去最高の2,095人で、過去5年間で26.8%増加しています。小学生の通信機器の利用のほとんどは、オンラインゲームや動画の視聴ですが、中学校になると、メールやLINEの割合が多くなります。そのため、SNSの利用による友人関係のトラブルも現に発生しています。また、東北大学の研究から、学力とスマホやメディアの使用時間には相関関係があることが明らかとなり、使用時間が長くなればなるほど成績は下がるという結果も表れています。

そのような中で、通信機器を生徒が安全かつ有効に活用できる環境づくりが喫緊の課題となっていることは周知のとおりです。そのためには、まず、子どもたちにかかわる私たち大人が「安全に賢く使うための知識」や「ルールを守って使える心」を育ませることが大切だと思います。そして、私たち自身が、SNSを学んだり、SNSの正しい利用を自ら態度で示したり、子どもとじっくり語り合いながら活用させたりしていくことが重要なことではないでしょうか。

今こそ、子どもたちのケータイ・ネットの利用実態を直視し、より望ましい利用のあり方へと、一人一人の意識を高め、具体的な行動へと移すべき時だと思います。今後とも保護者の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。



令和二年度 「心の輪を広げる体験作文」 (内閣府)
最優秀賞【内閣総理大臣賞】受賞作品

「友達として」

3年

4年程前、私が小学生だった頃に友達ができた。その友達は障害をもった一歳年下の笑顔が素敵な女の子だ。初めは「障害をもった女の子」と思ってたが接していた自分がいた。しかしその考えが間違っていることに気付かせてくれた。

私の通っていた小学校には障害をもった子達のためのクラスがある。そのため校庭で遊んでいる時や学校内で障害をもった子達と会うことがあった。しかし話すことはなく時々目が合うだけだった。そんな日が続いたある日のこと。私が休み時間に校庭で遊んでいると女の子が話しかけてきた。彼女は、

「一緒に遊ぼう。」
と優しい口調で誘ってくれた。話し方や顔立ちから障害をもっていることが分かった。目が合ったことは何度かあったけれど話しかけてくれるのは初めてで驚いた。しかしその気持ちよりも話しかけてくれたことに対する喜びの方が大きかった。私は、
「いいよ、何をして遊ぼうか。」
と言うと

「すべり台が良い、すべり台で遊ぼう。」
と嬉しそうにはしゃいでいた。時間はあっという間に過ぎ休み時間の終わりを告げるチャイムがなる。私達は次の授業に向け各々の教室に戻る。すると別れ際、彼女は

言う、
「楽しかったね。また遊ぼうね、私達友達だね。バイバイ。」

と。私は手を振って教室に入っていく彼女を見てはつとずる。そうか私達は友達なんだ。障害をもっている人と障害をもっていない人という関係ではない。友達なのだ。私は彼女が見えなくなる前に、

「私も楽しかった。友達になつてくれてありがとう。」
と大きな声で伝えた。彼女は最後まで手を振り返してくれた。

この日、私の中で障害に対する考えが大きく変わった。私は勝手に壁を作ってしまった。彼女は障害をもっているから私とは違う、私達は友達になれないという心の壁を。しかしこの考えは間違っていると彼女は気付かせてくれた。障害という壁はないのだ。障害をもっている人も障害をもっていない人も支え合わなくてはならない。だからこそ壁を作るのではなく手を差し伸べる、いつだって私達は仲良くなれるなど、障害に対する考えを改めていくべきなのだ。そうすれば障害をもった人達はもっと楽しく生きやすい未来が待っていると思う。

あの日、私に大切な事を教えてくれた彼女にありがとうと伝えたい。彼女はもう「障害をもった女の子」ではない。私の大切な友達だ。

